

秋葉区(新津地域)における景況調査の結果概要(2025年7月～9月期)

- 1.調査対象 100事業所(有効回答数95社、回答率95%)
- 2.対象期間 2025年7～9月期実績 及び 2025年10～12月期の見通し
- 3.調査結果の概要

今回の調査における全業種の業況DI値(実績)「△43.2」。これは前期(2025年4月～6月期)の「△53.6」からマイナス幅が縮小しており、景気全体としては依然として厳しい水準にあるものの、厳しさがわずかに緩和された状況が見られた。

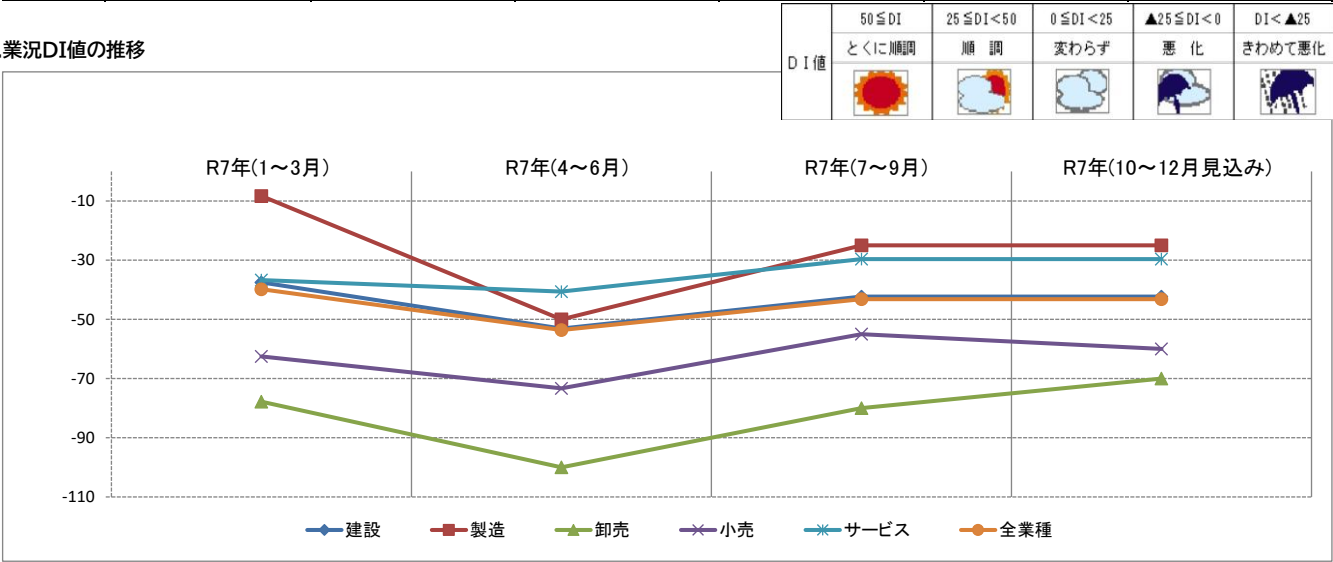
一方、売上高DI値(実績)において製造業が「25.0」、サービス業が「11.1」とプラスを記録しており、相対的に回復傾向が見られる業種も存在する。全業種を通じたその他のDI値では前期と比較し、従業員数DIが「△9.5」とマイナスに転じ、雇用面での厳しさが増していることがうかがえる。また、仕入単価DIは「△69.5」と高いマイナス値を示し、コスト上昇圧力が継続していることがわかる。

経営課題としては、「仕入単価の上昇」(49件)が全業種を通じて最多の大きな問題として挙げられており、引き続きコスト高が最大の懸念事項である。次いで「人件費の増加・圧迫」(38件)、「需要の停滞」(32件)と続き、コスト高と需要低迷の板挟みが地域経済に重くのしかかる状況が浮き彫りとなった。

価格高騰による企業活動への影響については、65%の事業所が「影響は継続している」と回答しており、影響の持続性が認められる。そのほか、「設備の不足・老朽化」(20件)や「原材料費・人件費以外の経費増加」(19件)といった項目も、企業経営における主要な課題として挙げられている。

	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	全業種
売上高	△ 19.2 (△ 19.2) 	25.0 (8.3) 	△ 70.0 (0.0) 	△ 30.0 (△ 5.0) 	11.1 (3.7) 	△ 12.6 (△ 4.2)
仕入単価	△ 80.8 (△ 73.1) 	△ 91.7 (△ 33.3) 	△ 70.0 (△ 50.0) 	△ 80.0 (△ 75.0) 	△ 40.7 (△ 44.4) 	△ 69.5 (△ 57.9)
採算	△ 42.3 (△ 53.8) 	25.0 (8.3) 	△ 50.0 (△ 10.0) 	△ 30.0 (△ 25.0) 	△ 14.8 (△ 14.8) 	△ 24.2 (△ 24.2)
資金繰り	0.0 (△ 7.7) 	8.3 (8.3) 	0.0 (0.0) 	△ 10.0 (△ 15.0) 	△ 11.1 (△ 11.1) 	△ 4.2 (△ 7.4)
従業員数	△ 15.4 (△ 11.5) 	8.3 (0.0) 	△ 20.0 (△ 10.0) 	△ 5.0 (5.0) 	△ 11.1 (0.0) 	△ 9.5 (△ 3.2)
業況	△ 42.3 (△ 42.3) 	△ 25.0 (△ 25.0) 	△ 80.0 (△ 70.0) 	△ 55.0 (△ 60.0) 	△ 29.6 (△ 29.6) 	△ 43.2 (△ 43.2)

5.業況DI値の推移



6. 価格高騰による企業活動への影響について

影響は継続している	影響は出たが、既に収束した	今後影響が出る可能性がある	影響なし
65%	4%	21%	9%